

収蔵資料から

其の99 第13歌集『くろ土』



第13歌集『くろ土』は、大正7年春から9年末までの歌が収録されており、表紙の文字は牧水自身の筆蹟が使われています。

大正7年、東京巢鴨の若山家には訪問者が絶えず、酒を出して相手をする牧水は、落ち着いて机に向えませんでした。また、家族も病気がちだったこともあり、牧水は静かな田園生活を願うようになります。こうして大正9年夏、静岡県沼津に転居します。

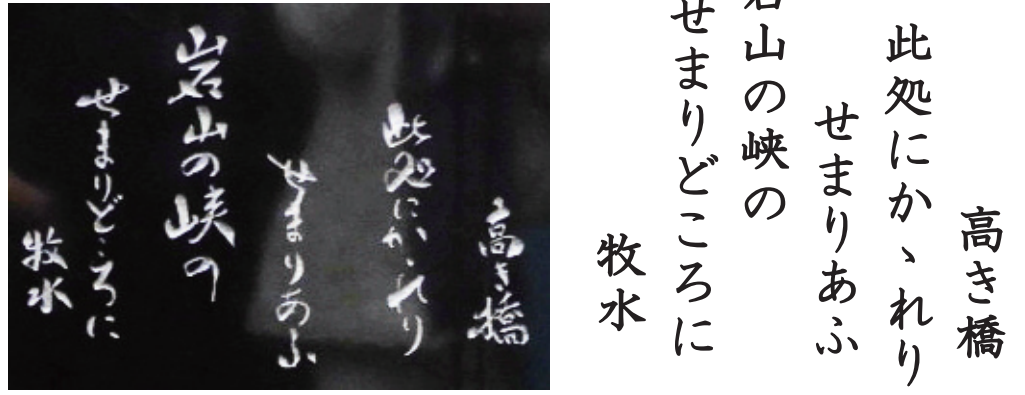
『くろ土』は30代の半ばに入り、人間としても歌人としても自信のついてきた頃の歌で、自序で次のように書いています。
「やれやれ今になって漸く自分には歌というものが解ってきたのかなアという気持ちである。延いてはこれが真実の意味における処女歌集というものかも知れないという気持ちである。」
(参照『若山牧水全歌集』)

牧水歌碑めぐり

其の100 猿ヶ京関所跡（群馬県）

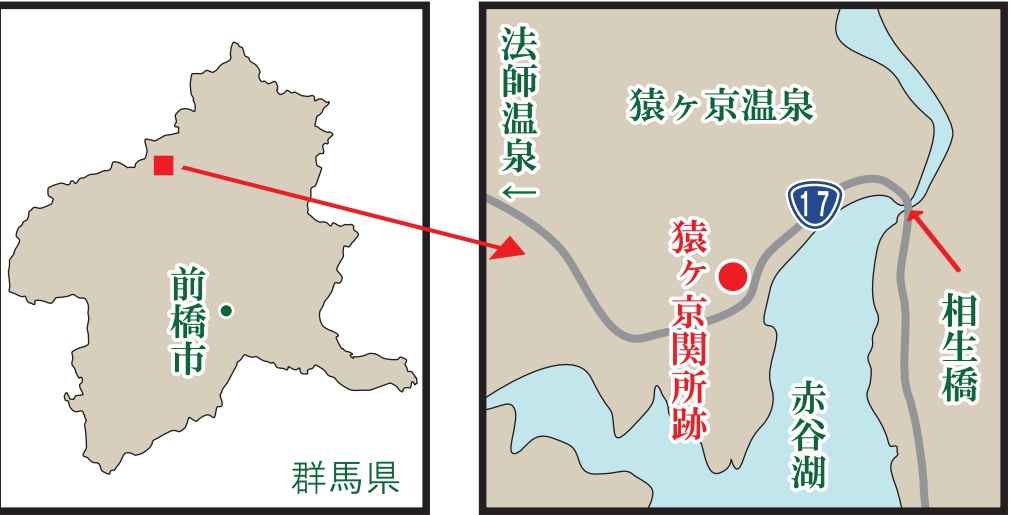


令和5年3月6日建立



大正11年秋、牧水は長野・群馬各地を巡る旅に出ます。10月22日、猿ヶ京温泉から更に奥の法師温泉に一泊します。翌23日、来た道に戻る途中、真上に架かる相生橋を見ながら休憩し、この歌を詠みました。

それから100年が過ぎた令和5年3月、猿ヶ京温泉で開催された第13回若山牧水顕彰全国大会を記念し、相生橋を眺めた場所の近く、猿ヶ京関所跡地に歌碑が建てられました。



文学館だより

令和7年4月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高第108号

=若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year=

文学館開館20年・牧水生誕140年記念企画展開催

文学館20年の歩み ～牧水と文学館～	4.1～6.29	●旧記念館建設から文学館建設に至る経緯を振り返る ●文学館20年間の企画展および企画事業を振り返る
	7月～9月	●若山家の歴史～所沢出身の健海が若山医院を開業～
牧水43年の生涯	10月～12月	●繁誕生～牧水誕生
	3月～5月	●歌人牧水誕生～終焉の地の沼津時代

「没後100年」 牧水没後の牧水顕彰	令和7年度～	●牧水歌碑建立から牧水顕彰会発足
	令和10年度	●牧水顕彰の歴史を振り返る

牧水生誕140年の令和7年度から牧水没後100年を迎える令和10年度までを「牧水メモリアルイヤーズ」と勝手に銘打ち、数々の記念事業を展開してまいります。皆様、お誘い合わせの上どうぞお立ち寄りください。



講座生募集!!『伊藤一彦短歌実作講座』

文学館開館2年目からスタートした「伊藤一彦短歌実作講座」も19年目に入りました。18年間通い続ける常連さんあり、新しくお仲間になられた方あり、楽しい時間を共有しています。今年度も講座生を募集いたします。伊藤先生のもとと一緒に短歌を学びたい方、お待ちしております。

開催日程、会場	①令和7年6月18日（水）	13:30～16:20	日向市中央公民館
	②令和7年8月20日（水）	13:30～15:30	日向市中央公民館
	③令和7年11月19日（水）	13:30～16:00	日向第一ホテル
内 容	○開催予定日の2週間前までに作品短歌を1首、若山牧水記念文学館まで提出していただきます。		
	○6月18日の1回目は、伊藤先生の講話があります。講座生以外の方も受講できます。講話終了後に実作講座を開催します。		
	○受講料1回につき500円		
参 加 対 象	宮崎県内にお住まいの方		
定 員	40名程度 ※先着順とさせていただきます。		

詳細は若山牧水ホームページをご覧ください。 <https://www.bokusui.jp>
申込締切 令和7年5月22日（木）



講座生募集!!『短歌実作基礎講座』

「短歌を詠んでみたいけれども、伊藤一彦短歌実作講座はレベルが高すぎる。初級者コースだったらやってみたい。」という声を耳にするようになりました。牧水生家で歌詠みができたらいいなあ、坪谷の風景を眺めながら歌会はできないものか、と事務局でも以前から話題にしてみました。ようやく実現の運びとなりました。ハードルを上げず、短歌に触れることから始めていきたいと思います。サーフィン、日向坂もいいけど、若山牧水が生まれた「短歌のまち日向」と一緒に盛り上げていきましょう。指折り数えながら、一緒に短歌を作りませんか。

令和7年度「短歌実作基礎講座」開催要綱

1 ねらい

①5・7・5・7・7の三十一文字のリズムを知り、短歌に触れる機会をもつ。
②短歌実作および鑑賞を通して、短歌の基礎を学ぶ。
③歌人若山牧水が東郷町坪谷に生まれたことを知り、「短歌のまち日向」づくりを盛り上げる。
④宮崎日日新聞「宮日文芸短歌部門」等への投稿気運を高める。

2 主催

日向若山牧水顕彰会

3 アドバイザー

日高尚子氏 日向市在住 「心の花」所属
鈴木睦代氏（補佐） 日向市在住

4 開催日程、会場、その他（予定）

①	令和7年	7月15日（火）	13:30～16:00	日向市中央公民館
②	令和7年	8月19日（火）	13:30～16:00	若山牧水記念文学館
③	令和7年	11月11日（火）	13:30～16:00	若山牧水記念文学館
④	令和8年	1月13日（火）	13:30～16:00	日向市中央公民館
⑤	令和8年	2月10日（火）	10:00～12:00	日向第一ホテル

○原則として、開催予定日2週間前までに短歌を1首提出するが、この限りではない。
○当日は、自作短歌を発表し鑑賞し合う。
○アドバイザーから短歌に関する基礎知識を学ぶ。
○受講料1回につき500円（欠席の場合も徴収させていただきます。）
○できれば年間を通して受講できる方を希望するが、この限りではない。

詳細は若山牧水ホームページをご覧ください

<https://www.bokusui.jp>

申込締切 令和7年6月6日（金）

第15回 青の國若山牧水短歌大会 作品募集中

作品募集

募集部門

【一般の部 自由題、題詠『上』】……全国どなたでも応募できます
【小・中・高校生の部】……県内の児童生徒が応募できます

選 者

【一般の部 自由題】 伊藤一彦（歌人、若山牧水記念文学館長）
【一般の部 題詠『上』】 大口玲子（歌人、第17回若山牧水賞受賞）
【小・中・高校生の部】 大口玲子

応募締切

令和7年6月30日（月）

表 彰 式

令和7年12月13日（土）

詳細は、若山牧水ホームページでご確認いただくか、若山牧水記念文学館に直接お問い合わせください。57577の調べに乘せてどうぞご投稿ください。たくさんのご応募お待ちしております。

昨年度の入賞作品より
「帰ろうか？」二歳児に問うと滑り台登りつつ言う「五歳まで待って」 一般の部題詠「問」
塾の友いつもいっしょにいたけれどはじめて知った生年月日 中学生の部

牧水先生の一首

全集未収録歌の中で、春を詠んだ歌を紹介します

小枕に朝さめやらぬ夢こめてのぼる潮の春の声聴く 明治38年詠
こまくらに あささめやらぬ ゆめこめて のぼるうしおの はるのこえきく

友よ酌めさかづきの数歌のかず山のさくらの数ときそはむ 明治40年詠
ともよくめ さかづきのかず うたのかず やまのさくらの かずときそわん

うつり来し宿のありさまふるさとの母に書く夜の春の雨かな 明治40年詠
うつりこし やどのありさま ふるさとの ははにかくよの はるのあめかな

みざくら散りすぎにけり昨日けふ雨にいよいよ葉のうつくしく 大正11年詠
やまざくら ちりすぎにけり きのうきよう あめにいよいよ はのうつくしく

小枕に朝さめやらぬ夢こめて
のぼる潮の春の声聴く
牧水

企画展『文学館20年の歩み』

20年間の企画展、企画事業を振り返る

【会期】4月1日（火）～6月29日（日）
【会場】企画展示室

平成17年、牧水生誕120年を記念して開館した当館は、今年で開館20年を迎えました。この20年間に展示してきた企画展の数々、主催してきた企画事業の数々を振り返ります。文学館20年の歩みを一挙にご覧いただけます。

動物の歌パネル

高森文夫未刊直筆原稿展示

残り16篇となりました

【会期】1ヶ月ごとに順次
【会場】第2展示室

第2展示室では、高森文夫が第2詩集としてまとめながら世に出なかった未刊直筆原稿集「嬌羞の歌」に収録されている詩51篇を1ヶ月ごとに順次展示しています。今月の展示を含め、残り16篇を残すだけとなりました。文学館でしか観られない直筆原稿です。ぜひ一度ご覧ください。

展示の様子

直筆原稿

若山牧水記念文学館

〒888-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地

■利用案内■
【開館時間】9:00～17:00（入館は16:30まで）
【休館日】月曜日（祝日は除く）年末年始（12月29日～1月3日）
【入館料】小・中学生100円 高校生以上310円（20名以上の団体は2割引）
【お問合せ】TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512【公式HP】<https://www.bokusui.jp>

QRコード

ホームページはこちら